

2021年12月27日 Vol.186

未曾有のラッシュで混乱気味の IPO 相場に光明

泣いても笑っても今年も残り1週間足らずとなり、気忙しい年の瀬を迎えようとしている。先週24日は1日の数としては過去最も多い7社がIPOするに至り、株式相場もやや混乱気味となっている。前号でお伝えしたように12月のIPO企業数は32社にも及びかつてないほどのIPOで東証の鐘の音は鳴りやまず、市場関係者は極めて忙しい状況だろうと推察される。そうした忙しさも峠を超え、残りは本日の2銘柄（アジアクエスト、セキユア）と29日の1銘柄（Intitution for a Global Society）となり、30日の大納会を迎えることになる。

先週末の日経新聞でも伝えられている通り、通常は初値が公開価格を上回るのだが消化難からIPOラッシュの中で初値が公開価格を割るといふ銘柄が相次いでいる。これまでに上場してきた12月の28銘柄の中で12銘柄の初値が公開価格を割り込んでいる。更に割り込まなくても同値か10%以下の値上がりで初値をつけた銘柄が8銘柄で合計20ほどのIPO銘柄の初値でのリターンが期待したほど上げられない、むしろマイナスになって落胆された投資家の方が多かったという現実と直面している。それはまさにややイレギュラーなIPOラッシュの中で起きたことと割り切って考えておく必要がある。更に17銘柄がIPO後の時価が初値を割り込み、需給悪をより一層印象付けている。9月までは初値が公開価格を割り込むことはなかったのだが、10月から11月にかけて3銘柄が割り込み、市場の変調が多少感じられたのだが、12月に入ってそうした動きが鮮明になってきたと言える。

その一方で光明も見出せる。20日に上場した東大発AI関連ベンチャー企業として話題を集めているJDSC（4418・M）の株価は初値こそ公開価格1680円に対してわずか1円高でスタートしたのだが、その後は3120円まで急騰。穏健なスタートから一気に人気化してきたことで市場関係者には安堵感も出ているのかも知れない。しかしながら23日に大型AI関連銘柄として上場してきたエクサウィザーズ（4259・M）はやや不人気で公開価格1150円に対して初値は1030円、約10%下回るスタートとなり、その後も906円まで下落するなど下値模索を見せている。同じAI関連とは言っても後者の公開時の時価総額は900億円以上でやや割高な印象があった。市場の評価は需給面で明暗を分けたと言える。

24日に登場した7銘柄のうち初日に値がつかなかったのがCXマーケティング関連のエフ・コード（9211）。同社の株価は公開価格2020円に対して4650円買い気配で終えるなど人気を集めている。また、石油を使わずにバイオマスから化学品をつくるバイオエコノミーを推進するGreen Earth Institute（9212）の初値は公開価格1160円と同値だったがその後、ストップ高まで買い進まれた。需給の悪化で市場は二極化しているが、多くの好内容IPO銘柄が株価の下落で割安感も台頭しつつあり、全体相場に掉尾の一振が期待される中で見直しの余地も高まってきた点は光明と言えそうだ。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）